

最優秀賞



はなれていても 家族だよ

日進小学校五年
佐々木 貴之

「家庭の日」 作文コンクール

子どもが心豊に健やかに育つためには、家庭や家族のあり方が何より大切とされています。

青少年育成国民会議は昭和四十一年から、毎月第三日曜日を「家庭の日」とし、親子のふれあいや家族の団らんを推奨しています。

青少年育成鳥取市民会議でも、この「家庭の日」の普及促進を図るため、昭和五十七年から毎年、市内の小学校児童を対象に家庭や家族に関する作文のコンクールを行っています。今年度は、百一点の応募がありました。

今回は、その中から最優秀賞に選ばれた作品を紹介します。

ぼくは、ちよつと悲しくなつた。お父さんは、ぼくに、「男代表でこれから、お母さんたちを守ってやってくれよ。」と言って別れた。その時、ぼくが守らんといいんと思つたよ。

はなれてくらすのは、とつても淋しいと思つてたけど、お父さんから毎朝、けいたいに、おはようコール（ならすだけ）がかかるし、お母さんから、元気コールを一回だけならして、切つていようように、試合とかの時は、必ず、前の日とその夜、お父さんから電話がかかるので、うれしい。柔道とか、もつともつと練習して強くなつて、お父さんに勝つ所を見てもらいたい。この前は、ひきわけで、くやしかった。でも、お父さんは、わざわざ試合のために帰つてきてくれたんだよね。うれしい本当にうれしかった。ありがとつ。お父さん、「これから、ぼくや、お姉ちゃんや、お母さんのためにがんばってください。ぼくたちもがんばりますよ。」

毎日、仕事でおそく帰つてくるお父さん。お父さんとはなれてくらすよつになつて、もう五ヶ月になるね。今は、一人で淋しくないですか。きちんごはんを食べていますか。

ぼくは、お父さんの転ぎんが決まつた時、お母さんの悲しそうな顔を知っているよ。でも、お姉ちゃんの学校の事や、ぼくの学校の事や柔道やサッカーの事を考えて、ここに残ると決めただよね。ぼくは、いつまでも、お父さん

と一緒に良かったけど、お仕事じゃ仕方がないと思つてる。

お父さんが引っこしの荷物をもとめて、新しい家に片付けしに行つて、帰りの汽車の中でお姉ちゃんと、お母さんが、ボロボロないてた。ぼくは、

「また会えるのに何でそんなになくんだろつ。」

でも、本当は、ぼくもちよつと悲しかった。汽車の中で誰もしゃべらなかつた。車掌さんが切符を見せてください

と回つてきているのにお母さんも、お姉ちゃんもくちやくちやな顔をしてた。少しした

ら、お父さんから、お母さんのけいたい電話にメールが入つてきて、それを見たら、お母さんも、お姉ちゃんも、また泣き出した。ぼくが見ると、

「いろいろ、ありがとつ、おつかれさん。貴君、男代表としてあつたのむよ、これから

三人で力を合わせてがんばつて！お父さんも明日からお仕事がんばるよ。」

という内容だった。